平和への誓い新たに

広島平和記念式典に参加

8月5日・6日の両日、小学生10名が広島平和記念式典に参加しました。

これは、二度と繰り返してはならない戦争・原爆の悲惨さと平和の大切さを深く認識してもらうことを目的に、旧町から引き継いで実施しているものです。

5日は、平和記念公園内にある原爆の子の像に折り鶴を捧げた後、原爆ドームや資料館を見学し、宿舎では末宗明登さんから原爆の被爆体験を聞きました。

6日には、平和記念式に出席し、犠牲者の冥福を祈るとともに、核兵器廃絶の願いと平和への誓いを新たにしてきました。

平和記念式典に参加して

油日小学校6年　黄瀬　健太朗

昭和20年8月6日午前8時15分、広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けました。街は、ほとんど破壊され、多くの人の命が奪われました。

被爆60周年を迎えた今年、ぼくは、幸運にも甲賀市の小学校代表として広島を訪れることができました。

みんなで折った千羽鶴を原爆の子の像に捧げ、ユネスコ世界遺産に登録されている原爆ドームを間近に見ました。鉄骨がむき出しになり、爆風に押しつぶされた壁のコンクリートやレンガが、ゴロゴロ転がっていました。原爆のすごい威力をみたような気がして、ぼくは、恐ろしくなりました。世界では、今もなおこのような核兵器が存在し、戦争やテロによる悲惨な光景がテレビや新聞で報道されています。あまり身近に感じたことがなかったニュースも、戦いのかげで、多くの人の命が失われている現実を考えると、改めて人間同士で戦うことがいかに悲しいことか考えさせられます。

また、広島平和記念資料館では、8時15分で止まった時計、白壁に残った黒い雨の跡、黒こげになった弁当箱や学生服など遺品をたくさん見学しました。その中でも原爆被災者の状況を示すジオラマは、正直気持ち悪く、あまり見ることが出来ませんでした。熱線でやけどをし、皮膚がだらりとたれて、血みどろになって歩いている姿はとてもかわいそうだなぁと思いました。被爆された人の苦しみや悲しみがぼくの心に直接語りかけているように感じました。

広島へ到着した日の夕方に聞いた、語り部さんの話に、ぼくは吸い込まれました。当時18才だった語り部さんは、国鉄の駅の修復作業の朝礼を終えて、友達と屋上へ行った時に被爆されました。爆風で吹き飛ばされましたが、友達のカゲに隠れていた右半身は、無傷だったそうです。語り部さんの前にいた友達は、翌日亡くなられました。

原爆には、爆風、熱線、放射線という三つのエネルギーがあります。その中でも、目に見えない放射線の被害は、何年もたってからガンや白血病という病気となって、人の命をうばうそうです。その語り部さん本人も、「いつガンになって死ぬかわからない。」とおっしゃっていました。また、「今の原爆は、広島に落とされた原爆の百倍以上あって、こんな威力の爆弾で戦争したら人類がなくなってしまう。」と言っておられました。

ぼくも、ぼくの両親も戦争は知りません。でも、戦争や原爆の悲惨さは、必ず語り継がなければなりません。ぼくたちは、毎年おこなわれる平和記念式典を通じて、みんなの心から戦争や原爆によって失われた多くの命があったことを忘れないようにしなければなりません。

戦争や核兵器のない平和な社会を実現できるようにぼくは、努力したいです。

広島の平和

甲南第一小学校6年　御子神　愛

私は、広島に行くまではあんまり興味を持っていませんでした。でも資料館や語り部さん達が興味を持っていない私をかえてくれました。そこから興味を持つようになりました。原爆ドームを生で見た時、戦争のおそろしさを感じました。原爆ドームの回りはレンガで丈夫なはずなのにそのレンガもこなごなになっていて、リトルボーイの破壊力は、私の頭では考えきれないほどの破壊力だと思いました。資料館で戦争について市岡先生に聞いてみました。まず「なんで晴れの日におとしたの」と言うと「晴れていたら家など見えやすく人をねらいやすいからよ」と聞き、アメリカってひどい国だと思いました。資料館で一番印象に残っているのが皮ふが強烈な熱線によりたれさがっている所です。私はかわいそうな気持ちでいっぱいになりずっと見ていられませんでした。語り部さんの話では、資料館よりたくさん戦争のことが学べました。語り部さんは実際に戦争を体験しておりその時の事を私達に説明してくれました。59ヶ所もガラスのはへんがささっていたが、それは友達が30㎝手前にいたから助かったと語り部さんが言っていました。その友達がいなかったら語り部さんはなくなっていたかもしれません。30㎝の間に死と生の境目ができていたと思います。それから熱線、爆風、放しゃのう、この三つの事について語ってくれました。私が一番こわいと思った物は、熱線です。何でこわいと思っているかと言うと、その時は傷一つなしで助かっても、何年か後にガンになったり、急性白血病になるからです。1.6㎞でもケロイドが出来るくらいです。その日の夜は、救急車の音を聞いただけでも、そくぞくしていました。

次の日の朝、テレビをかけたら今から行く原爆ドームがうつってあり、とてもわくわくしていました。

式典で思ったことは、戦争は人間のしわざで人間の生命をうばってしまうことです。でもたった一つだけ戦争をなくす方法があります。それは、戦争、争い、暴力、いじめなど、これらを起こすのは人間の心だということです。相手を思いやる気持ちをふくらませ、大切にする事が戦争などをなくすのに一番近いと、私は思います。

被爆者が求めている事は、生きているうちにこの戦争と言うのがこの世からなくなってほしいという事です。人の命のとうとさやたくさんの人の未来をうしなった戦争や原爆は、絶対にあってはいけないことだし、被爆者がいなくなられても忘れられていくのではなく、平和を願い原爆のおそろしさを伝え、語り、忘れてはいけない事だと思いました。

平和記念式典に参加して

綾野小学校6年　村井　律子

8月5日、私は少しこわい気持ちでバスに乗ってみんなと広島に行きました。なぜかと言うと原ばくが投下されて60年。また投下されるんじゃないかと思ったからです。

そして約6時間半の道のりで広島につきました。広島についてまず始めに公園に行って折づるをとどけに行きました。原爆の子の像のまわりにとうめいのケースがあり、そこに折づるを持って行きました。そこにはもう数え切れないほどの折りづるがありました。とどけたあと公園をまわりました。そしたら原爆ドームが見えました。上の方は、ほとんどなく原爆のこわさを教えられました。そして少しきゅうけいをとってこんどは原ばく資料館を見学に行きました。資料館ではなぜ広島に投下したのかなどいろいろ書いてありとても勉強になりました。そして三階の方へ行くと焼けこげた服、8時15分でぴったりとまっている時計、人がとろけたあとなどが提示してありました。私は、「本当に、原爆がおそろしい物だ」と改めて実感しました。中にはかわいそうなみだが出てきそうな物も少なくありませんでした。

見学をおえたあとホテルに行き、それから語り部さんのお話を聞かせていただきました。

語り部さんは、原ばくが投下された場所から1.9㎞しかはなれていないところにおられたそうです。

原爆は上空8500mの所から投下され14秒ほどでばくはつしたと聞きました。その温度はまさに百万度ぐらいだったそうです。ばくはつで助かったとしてもほうしゃのうを受けていつがんになるかわからない、いつ白血病になって苦しまなければならないと聞いて私はとても悲しい気持ちになりました。

そして次の日、式典に参加しました。ものすごい多くの人でした。

式典ではもくとうをしたり、平和のちかいや、平和せんげん、そして最後に「ひろしま平和の歌」を歌いました。二度と戦争がおこらないように願いました。

この二日間でいろいろなことを学んで「本当に戦争はおそろしいことだ。」「ぜったいにしてはいけないことだ。」と思いました。

これから先、何か平和に関係することがあったときには、この経験をいかして協力していきたいです。

「いつまでも平和な世界でありますように」

広島平和記念事業に参加した皆さん

綾野小学校・6年	村井（むらい）　律子（りつこ）
伴谷東小学校・6年	安在（あんざい）　景祐（けいすけ）
水口小学校・6年	中村（なかむら）　慎之介（しんのすけ）
油日小学校・6年	黄瀬（きのせ）　健太朗（けんたろう）
佐山小学校・6年	佐治（さじ）　英里香（えりか）
希望ヶ丘小学校・6年	有田（ありた）　拓巳（たくみ）
希望ヶ丘小学校・6年	宗像（むねかた）　秀平（しゅうへい）
甲南第一小学校・6年	鵜飼（うかい）　光（ひかる）
甲南第一小学校・6年	御子神（みこがみ）　愛（あい）
小原小学校・6年	杉本（すぎもと）　幸真（ともみ）
団長（教育委員会）	山本（やまもと）　佳洋（よしひろ）
教諭（教育委員会）	福永（ふくなが）　佐栄子（さえこ）

【問い合わせ】
総務課　☎ 65−0663
FAX63−4554